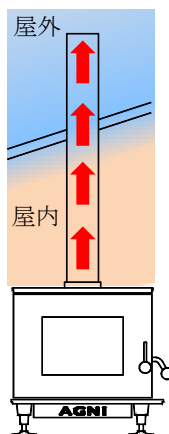


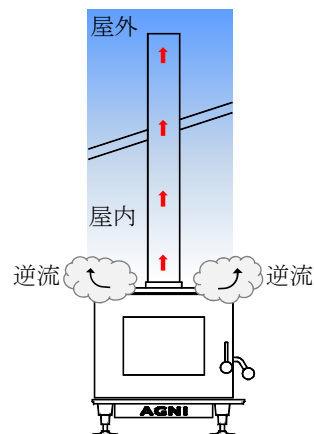
着火がうまくいかない場合…

煙突からの排煙によるドラフト（上昇気流）が弱い場合、着火が上手くいかず、煙がストーブから逆流する現象を生じます。

ドラフトは暖まった空気（煙）が軽くなり上昇することで起こるもので、室内のストーブ本体と外部の煙突との温度差が大きいほど強くなります。冷え切った室内で、外部との温度差があまりないような場合に着火を行うと、逆流現象は生じやすくなります。



温度差がある場合



温度差がない場合

このような場合は、以下の手順に従って着火作業を行ってください。

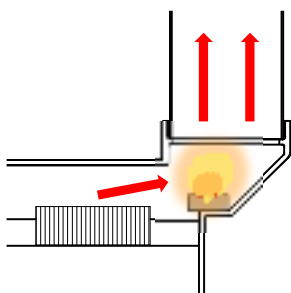
- ① グリドル蓋を開けます。
- ② 市販の着火剤に火をつけ、写真の位置（煙突の真下）に置きます。
※煙突を温めることでドラフトを促します。



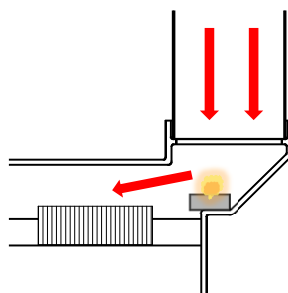
火災の恐れがありますので着火剤の取り扱いには十分に気を付けて下さい。

- ③ 着火剤の煙が煙突にスムーズに上がっていけば、正常なドラフト状態です。グリドル蓋を元に戻し、通常の着火を行ってください。

着火剤の煙が逆流する場合は、逆方向のドラフトになっています。グリドルから煙が逆流しない程度に蓋を閉め、しばらく様子を見ながら煙突を温めます。徐々に煙突が温まり、正常なドラフト状態に変わります。



正常なドラフト状態



逆方向のドラフト状態